



第2節 各職種の紹介



航海員(1/2)

1 仕事の内容

航海員は、自衛艦(潜水艦を含む)に乗組み、手旗、発光、旗旒信号により自衛艦同士または商船とのメッセージ交換、並びに艦の操縦に関し操舵装置、航法装置の取り扱い、整備を行っています。また、国旗の掲揚、降下時ラッパの吹奏を行います。なお、潜水艦でも勤務できます。

2 仕事に就くために

特に経験は必要ありませんが、海洋少年団やトランペットの吹奏経験があれば役に立ちます。教育隊終了後、航海要員として約1年間護衛艦等で勤務し、その後、第1術科学校の海士航海課程(約5ヶ月)を経て、護衛艦の航海科航海員として艦艇勤務となります。

3 主な勤務地

全国5カ所の総監部(横須賀、呉、佐世保、舞鶴、大湊)等を母港とする艦艇部隊、第1術科学校等の教育部隊などがあります。



(艦橋内の勤務)



(上級指揮官等への礼式)



(学校での行進)

航海員(2/2)

4 取得可能な資格及び免許

各級海技士(航海)(国家試験)、各級海技(運航)(防衛省内の資格)

5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
教育隊(練習員等課程)	護衛艦(航海科航海員)等	第1術科学校(海士航海課程)	護衛艦(航海科航海員)等		教育隊(初任海曹課程)		護衛艦(航海科航海員)等		第1術科学校(海曹航海課程)

(航海員の一日の流れ)

- 停泊中
 - 0700頃 帰艦(出勤)
 - 0800(1200)仕事
 - 1200(1300)昼食、休憩等
 - 1300(1645)仕事
 - 1730頃 上陸(退勤)
- 航海中
 - 0600 起床
 - 0615(0700)朝食
 - 0800(1200)訓練等
 - 1200(1300)昼食、休憩等
 - 1300(1700)訓練等
 - 約3時間3交代制で艦橋で当直勤務

6 先輩からの一言



いろいろな職種がある中で、最も船乗りらしい仕事が航海員です。広大な海を見渡せる艦橋を職場とします。船を操縦したいと思いませんか。

また、手旗や発光等を使用し離れた船と会話できるのも航海員ならではの楽しみになっています。

電 測 員 (1 / 2)

1 仕事の内容

電測員は、護衛艦、掃海艇等に乗組み、航海・作戦行動に必要な情報をレーダーやコンピューターを利用して収集し、その後、作図、整理、評価の手順で情報を精査し、任務遂行上必要な情報を各部署に配布することを目的としています。これらの電測員の精査した情報が、指揮官(艦長等)の意思決定に関して、非常に重要な要素となります。なお、潜水艦でも勤務できます。

2 仕事に就くために

教育隊終了後、船務要員として約1年間護衛艦等で勤務し、その後、第1術科学校の海士電測課程(約4ヶ月)を経て、護衛艦の船務科電測員として艦艇勤務となります。レーダーやコンピューターなどが苦手になっている人でも、第1術科学校において教官が、優しく教育してくれるので、心配はいりません。

3 主な勤務地

全国5カ所の総監部(横須賀、呉、佐世保、舞鶴、大湊)等を母港とする艦艇部隊(護衛艦、掃海艇、ミサイル艇等)、第1術科学校等の教育部隊などがあります。



(CIC内の勤務)



(最新護衛艦「ひゅうが」には多数勤務)



(潜水艦でも勤務できる)

電 測 員 (2 / 2)

4 取得可能な資格及び免許

特殊無線技士レーダー(防衛省内の資格)

5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
教育隊(練習員等課程)	護衛艦(船務科電測員)等	第1術科学校(海士電測課程)		護衛艦(船務科電測員)等		教育隊(初任海曹課程)		護衛艦(船務科電測員)等	

6 先輩からの一言



非常にやりがいがあります。特に、自分が精査した情報が任務遂行に寄与した時は、格別です。

(電測員の一日の流れ)

- 停泊中
 - 0700頃 帰艦(出勤)
 - 0800(1200)仕事
 - 1200(1300)昼食、休憩等
 - 1300(1645)仕事
 - 1730頃 上陸(退勤)
- 出港中
 - 0600 起床
 - 0615(0700)朝食
 - 0800(1200)訓練等
 - 1200(1300)昼食、休憩等
 - 1300(1700)訓練等
 - 約3時間3直で戦闘情報処理区画で当直



情報員(1/2)

1 仕事の内容

雑誌やインターネット等、世界中で報道された情報や自衛隊が収集した情報等を分析・評価する等して、日本の防衛や自衛隊の行動に活用する仕事です。

2 仕事に就くために

教育隊終了後、船務要員として約1年間護衛艦等で勤務し、その後、第2術科学校の海士情報課程(約4ヶ月)を経て、情報員として情報部隊勤務となります。

3 主な勤務地

情報部隊の多くは、東京、横須賀に集中していますが、各地方総監部、艦艇部隊、航空部隊等にも情報員が幅広く配置されています。

4 資格等

将来、語学を身につけてみたいと思っている人、専門の学校で教育を受けることができます。



【監視実習】
(沿岸を航行する船舶の識別を行う訓練です。)



【機上実習】
(P-3C哨戒機に搭乗して船舶の識別、写真撮影などを行います。)



【港内における収集実習】
(港内の状況を調査して、資料を作成します。)

情報員(2/2)

5 その他

「情報の適否は、部隊運営、行動の成果に重大な影響をもたらすばかりでなく、ひいては国家の命運をも左右する。」と言われるほど重要な仕事です。仕事に対する充実感、満足感が得られること受け合いの職種です。

また、写真が好きな人には、航空機や護衛艦に乗って写真を撮影したりする配置もあります。

6 先輩からの一言



私は、何にでも興味を持つタイプなので情報員を希望しました。教育隊修業後、約1年間、岩国の警衛隊で勤務した後、第2術科学校で教育を受け情報員となりました。

修業後は、岩国航空基地で群司令部の情報作業班員として約2年半勤務、その後、EP-3電子戦データ収集機を保有する第81航空隊で勤務しました。

現在は、第2術科学校海曹情報課程で情報員として2回目の教育を受けています。

通信員(1/2)

1 仕事の内容

通信員は、艦船、潜水艦、陸上基地、航空基地などにおいて、部隊の耳となり口となる欠くことのできない、無線通信や情報システムの運用・保守を行っています。今やインターネットや携帯電話での通信は誰でも行っている時代ですが、いつでも、どこでも誰でもが安全確実に通信が行えるよう陰で支えたり、部隊指揮官の意思を無線通信でタイムリーに関係部隊に伝えたりすることにより部隊の任務達成に大きく貢献できる通信員はやりがいのある仕事です。無線通信は無線電話やモールスを使用して行います。適性のある人は、教育を受けることで、送受信できるようになります。通信は、自衛隊の中でも、最も早く女性に開放された職種の一つで、体力のハンディを感じることの少ない職場であり、勤務と子育てを両立させている隊員も少なくありません。なお、潜水艦でも勤務できます。

2 仕事に就くために

教育隊終了後約1年間、船務要員として艦船への乗り組みや、システム通信隊で勤務。その後、第1術科学校の海士通信課程（約5か月）を経て、艦船の船務科通信員として艦艇勤務になる人や、システム通信隊の運用科員として陸上勤務になる人がいます。適性のある人は海士通信課程に引き続き無線電信（モールス）課程に進み、その後無線従事者の国家資格取得課程へ進み、無線通信士の国家資格を得て部隊で活躍できます。



(ネットワーク構築の実習)



(パソコンによる通信)



(モールス送受信)

通信員(2/2)

3 主な勤務地

全国5か所の総監部等を母港とする艦艇部隊、総監部地区、基地隊（函館、神戸、沖縄）、航空基地（厚木、鹿屋、岩国、八戸、那覇、館山、舞鶴、大湊、小松島、下総、徳島、小月）、第1術科学校等の教育部隊などがあります。

4 取得可能な資格及び免許

(1) 付与される免許

無線通信士(防衛省内の資格) * 第1術科学校修業時に付与されます。

(2) 将来取得機会のある免許

無線通信士(国家資格) * 専門のコースがあります。

5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	
教育部隊(練習員等課程)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務要員)	第1術科学校 (海上通信課程) 無線電信課程	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)	教育部隊(初任海曹課程)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)	システム通信隊等 又は 護衛艦等(船務科通信員)

6 先輩からの一言



通信員は勤務地も豊富にあり海外派遣・災害派遣でも活躍しています。

ホットな情報収集に携わり、とてもやりがいのある仕事です。

私は結婚・出産を経て子育て中ですが、充実し楽しく勤務しています。

気象海洋員(1/2)

1 仕事の内容

気象海洋員は、海上自衛隊の航空機や艦船を安全、効率的に動かすために必要な気象・海洋に関する観測、観測データの通報、観測資料の整理等を行っています。

気象観測においては、天気や風、視程、気温、雲、気圧などの状態を、海洋観測においては、海水温度、塩分、海流、底質(海底を覆っている物質)、海底地形等の状態を観測します。

2 仕事に就くために

教育隊終了後、船務要員として約1年間護衛艦や航空基地等で勤務した後、第1術科学校の海士気象海洋課程(約5ヶ月)を経て、航空基地や海洋観測艦の気象海洋員として航空部隊や海洋観測艦勤務となります。

3 主な勤務地

気象海洋員は、海上自衛隊の陸上部隊(航空基地や地方総監部、警備所など)、艦船で勤務することとなり、これらの部隊は日本のほぼ全域にあります。特に、航空基地には航空機の運航を支援するために、必ず気象海洋員が配置されます。また、海洋観測を専門に行う砕氷艦をはじめ、海洋観測艦や護衛艦にも気象海洋員が乗り組んでいます。主な部隊(勤務地)は次のとおりです。

- (1) 陸上部隊:各地方総監部(横須賀、呉、佐世保、舞鶴、大湊)、第1術科学校等の教育部隊など
- (2) 航空部隊:各航空基地(八戸、大湊、厚木、下総、館山、硫黄島、岩国、小月、徳島、小松島、舞鶴、大村、鹿屋、那覇)
- (3) 艦艇部隊:イージス艦、ヘリコプター搭載艦、海洋観測艦、砕氷艦(しらせ)、練習艦(遠洋航海部隊)



(天気予察)



(天気図を確認中)



(観測資料の整理)

気象海洋員(2/2)

4 取得可能な資格及び免許

気象予報士: 気象予報士は誰でも受験できますが、気象海洋員は、気象観測などの実務に携わっているため、受験に必要な知識を習得しやすく、気象予報士国家資格を取得するには有利な職域です。

測量士補: 海上保安庁の海上保安学校海洋科学課程に入校するチャンス(1~2名/年)があり、この課程を修業すれば測量士補の資格が得られます。

5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
教育隊(練習員課程等)	護衛艦・航空基地 (船務要員)	第1術科学校 (海士気象海洋課程)	航空基地等勤務 (気象海洋員)	教育隊(初任海曹課程) 3曹への昇任(選抜)	航空基地、艦船 (気象海洋員)				

6 先輩からの一言

気象海洋は、私たちが住む地球を知ることが職務の基本です。大変、奥深く興味が広がる仕事でやり甲斐があります。



電子整備員(1/2)

1 仕事の内容

電子整備員は、海上自衛隊が保有する電子器材及び関連器材の整備又はこれらに関する実技の指導、教育等を担当しています。このためハイテク技術の粋を極める機器を整備する電子整備員の仕事は、最もやりがいのある職種と言えます。江田島にある第1術科学校で、電気の基礎から学ぶので学歴や経験など気にする必要ありません。多くの女性自衛官も部隊で活躍中です。なお、潜水艦でも勤務できます。

2 仕事に就くために

教育隊終了後、船務要員として約2年間護衛艦等及び陸上部隊で勤務の後、第1術科学校の電子基礎課程(2ヶ月)、引続き海士電子整備課程(4ヶ月)を経て、艦艇及び陸上部隊の電子整備員及びシステム整備員としての勤務となります。

3 主な勤務地

主な勤務場所は、護衛艦、潜水艦及び掃海艇等で、電子整備員及びシステム整備員として勤務します。また、システム通信隊、航空部隊の陸上施設、各種学校等、陸上での勤務も多く、「部隊が在る所に電子整備員在り。」と言われるほどです。



(レーダー指示器の整備)



(電子整備員課程の教務中)



(IDDNマイクロ機器の点検)

電子整備員(2/2)

4 取得可能な免許

- (1) 課程教育により付与される国家資格
- (2) 課程教育により受験できる国家資格

第1級陸上特殊無線技士

第2級陸上無線技術士、工事担任者AI第1種

5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
ライフスタイル	教育隊(練習員等課程)	護衛艦等及び陸上部隊 (船務要員)	第1術科学校(電子基礎及び電子整備課程)	護衛艦 潜水艦 掃海艇等 (電子整備員、システム整備員)	システム 通信隊 航空部隊の 陸上施設 (電子整備員)	教育隊(初任海曹課程)		(電子整備員、システム整備員)	護衛艦 潜水艦 掃海艇等	
				システム 通信隊 航空部隊の 陸上施設 (電子整備員)	システム 通信隊 航空部隊の 陸上施設					

6 先輩からの一言



「電子整備員は器材整備(故障修理)において多面的思考が要求され、奥が深い職人的要素が必要である。このため多くの専門的配置があり、道は開かれている。」

「後輩よ、俺に続け!!」



(ユニークな電子整備の教官)